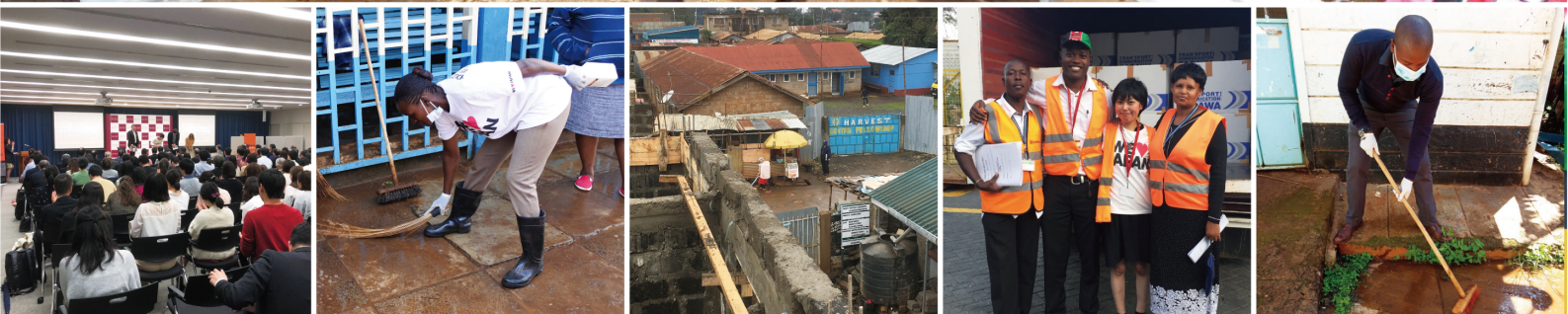


平成30年度 事業報告書

日本リザルツ平成31年2月8日作成



04 APRIL

2018 年 04 月 01 日

[ニュース] ガザのデモ死者 15 人に

日本リザルツは国連パレスチナ難民救済事業機関(UNRWA)のキャンペーン事務局をしています。今日は非常に深刻なニュースが入ってきました。以下、時事通信のニュースを引用しております。

ガザのデモ死者 15 人に＝「テロ画策」とハマス空爆－イスラエル

【エルサレム時事】パレスチナ自治区ガザの対イスラエル境界沿いで30日起きたパレスチナ人デモ隊とイスラエル軍の衝突で、ガザの保健当局によると、死者が15人、負傷者は1400人以上に達した。厳戒態勢を敷くイスラエル軍は、ガザを実効支配するイスラム原理主義組織ハマスがデモを利用してテロ行為を画策していると非難。ハマスの複数の拠点に空爆や砲撃を加えた。

米、ガザでの衝突に「悲しみ」

イスラエル軍の推計では、故郷への帰還を求める今回のデモには約3万人が参加。ネタニヤフ・イスラエル首相のポスターやタイヤを燃やし、手投げ弾や石をフェンス越しにイスラエル領内に投げ込んで氣勢を上げた。

AFP通信によれば、軍はドローン(小型無人飛行機)を使って催涙ガスを投下したり、実弾を発砲したりしてデモ隊排除を試みたが、一部が暴徒化した。軍はハマスと関係する人物が境界フェンスに近づき兵士に発砲したとして、ハマス拠点を攻撃した。

一方、ヨルダン川西岸のパレスチナ自治区でもナブルスなどで数百人規模のデモが起き、約60人が負傷。アッバス自治政府議長は31日を犠牲者追悼の日とすることを決めた。

国連安全保障理事会は30日夜(日本時間31日午前)、非常任理事国クウェートの要請で緊急会合を開いたが、声明などの対応を打ち出せなかった。一方、グテレス国連事務総長は声明で、衝突に「深い懸念」を示し、「独立した透明性ある調査を求める」と要請。当事者に犠牲者拡大を招く行為の抑制を呼び掛けた。

帰還要求デモは、境界地帯に設置されたテントを拠点に、イスラエル建国などで多数のパレスチナ人が難民となった「ナクバ(大惨事)」を記念する5月15日まで続く見通し。5月には在イスラエル米大使館のエルサレムへの移転も予定されており、衝突が一段と激化する恐れもある。(2018/03/31-11:22)

UNRWA を巡っては、トランプ大統領が拠出の一部を凍結するなど、不透明な状況が続いています。

この状況を何とかしたい！日本リザルツの代表白須も、UNRWA の清田保健局長、そして、ミュージックセキュリティーズの小松社長とともにクラウドファンディングのサイト立ち上げに協力させていただきました。

寄付があつまり、530 万人の難民の尊厳が守られることを切に願います。



2018 年 04 月 02 日

MOVING FORWARD

Over the past few weeks, we have been involved in a number of activities, which have made the first quarter of 2018 quite an eventful period at RESULTS Japan Kenya Office. To begin with, the lab construction is gaining shape, and the progress of construction is quite impressive. Personally, I love the professionalism of the contractor, and the quality of work at site. The clean-up that was led by Yuko and Lilian achieved great RESULTS. The idea of sanitation is quite impressive and goes a long way in teaching the community how to live in cleaner environment. Cleanliness indeed, is a very important aspect of health, which cannot be ignored at any level.

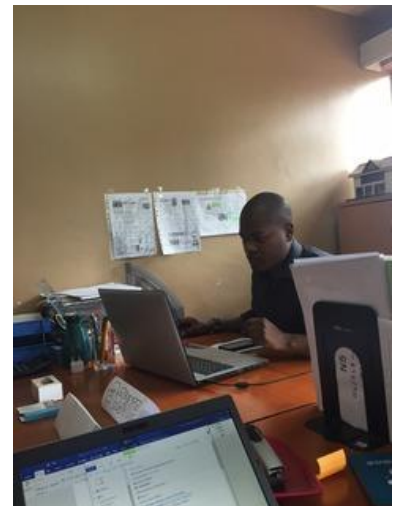


The kite flying event goes as one of the most successful as well. We are thankful to all those who supported us in every manner. As from tomorrow, we conduct monthly and follow up meetings where we intend to address any matters that affect our work, and how to make better the workings of our organization. We hope to have a much more engaging, and successful period ahead.

助っ人参上！

ケニアはイースターのため、金曜日から4連休です。月曜日、1人でオフィスで作業していると「ゆーこさん！」という声が。なんと、スタッフのアブタさんが、お休みにも関わらず、お仕事のサポートをしに来てくれました。

仕事に励むアブタさん。本当に心強いです！朝から、ケニア事務所の数々のミッションについて話し合いを行いました。頼りになるスタッフに囲まれて、日本リザルツのケニア結核抑止プロジェクトは運営されています。



66グローバル人材育成道場について

先週水曜日(3月28日)に渋谷健司先生をお招きし、「66グローバル人材育成道場」の創設について、話し合いを行いました。このことについて、私の意見を書き留めておこうと思います。

○何のための人材育成か

日本における超高齢社会の到来、日本経済(世界経済)の低迷、生かされていない日本の知見と経験。私(21歳)と同年代に流れる社会に対する不信感と不安。65歳になり定年を迎えた方の労働意欲の向上。これらが背景にある(と私は考えている)が、実際にどう活かして、何を達成したいのかが考え抜かれていない。例えば、「戦後の高度経済成長を支えた世代の知見と経験を、意欲あふれる若者たちに伝承し、アジア・アフリカ圏などで実践する。結果として、世界経済ないし日本経済を良くしよう。また、国際社会における日本のプレゼンスの向上を図ろう」(アジア・アフリカだけでなく、復興事業なども良い)

○日本リザルツが何をするか

上記の目標や筋道に対して、国際 NGO である日本リザルツは何ができて、何をやるのか。

一学生の立場として

-学ぶ意欲や行動力のある学生が多いこと

-海外に対して「ぼんやり」とした「憧れ」がある学生が多い

-社会に対して「不安」がある学生が多い

-考えさせられる事柄から逃げる学生が多い(あきらめ世代と揶揄されることも)

=不安を取り除き、日本社会の方針、具体的な「道筋」を見出せる機会があると良い。さらにその上で「達成感」が得られる経験があると自分に自信が付き、自発的に行動ができるようになる。

学生も何かと忙しい時期です。自分に何ができるのか過小評価しすぎている傾向があると思います(私の実感ですが)。経験のある方々と協力すると、実践的に学び行動することができます。それを理解した上で、どのように目標を設定していくか今後考えていこうと思います。

2018 年 04 月 04 日

アブタさんの寄稿がまた新聞に！

日本リザルツケニア事務所のスタッフで、政治家の卵・アブタさんの寄稿がまたケニアの全国紙「Daily Nation」の土曜版に掲載されました！

アブタさんは、ケニアをはじめとするアフリカ諸国で依然として、HIV/AIDS、結核、マラリアなどの感染症が人々の死因となっていることを指摘した上で、各国政府の保健行政に対する拠出が少ないことを問題提起しています。なんと、マラリアに関する予算は必要額の1.3%しか出されていないそうです。その上で、アブタさんは、各国政府の財務体制を見直した上で、HIV/AIDS、結核、マラリアなどの特に死亡率の高い疾患へ拠出を行うべきだと提言しています。アブタさんがケニアの保健行政に一石を投じる日が来るのも、そう遠くないかもしれませんね。



2018 年 04 月 08 日

学生時代の漕艇部と47年後の現在

筆者は最近若手と高齢者の触れ合い方という観点で、その戦略を検討している。内容的にはまだ私的事象に類する面が強く、渋谷先生からは先輩の個人的な考えに固執しないように更に深掘してくださいというご指摘を頂いている。

今日のテーマもそのラインにある。3月28日には後輩の渋谷教授のミニ熱血講義が行われ、2年後輩で学生時代苦楽を共にしたT君が小生の依頼でリザルトに来訪した。

漕艇部卒業後、大手ゼネコンに飛び込み、世界をまたにかけた大活躍後、現在は日本とミャンマー国の橋渡しの人材派遣事業など、人材教育の実践の貴重な話に若手と加わってくれたことなどを以前書いた。今日の投稿はその続編である。この思いは今まで誰にも話したことはないが、生き方、高齢者であってもなにかしら社会に貢献をしたいという強い希望を持つ筆者の長い人生の出発点である。

なぜ漕艇部に入ったのか、その瞬間からその後47年間にわたる人生の基本的な方向性が決定したかと思うと、何かの縁、運命を感じる。

それは1971年4月第1週のある日、駒場東大前駅を降り、正面にある憧れの正門を通過したその時だった。たまたま顔を合わせた1学年先輩から1枚のチラシをもらった。その先輩が、今から歓迎コンパがあるから学生会館にこないかと誘ってきた。

正門左50mのところに会館はあった。そこには筋骨隆々の4年生、2年生が待ち受けていた(3年生は2年前の入試中止でいなかった)。自分は2番目の新入生だった。会場を埋め尽くす将来の仲間、先輩による歓迎会であった。筆者は主将の隣に座った。その瞬間、筆者は入部を決めた。その日はどこにもよらず下赤塚駅からアパートに走って帰った。孤独な戦いだった受験生時代から解放され、仲間という生活の場ができた喜びで嬉しさが爆発したのだ。入部後、先輩方は、強く厳しく、優しくった。この大学に入ってよかったと思った。あとは、学業は二の次、4年間ひた走る、いや漕ぎ続ける学生生活が始まったのだ。

そして今若手、後輩との生き方、社会貢献のありかた、働き方を考えている。

工事がどんどん進みます！

日本リザルトはケニアのスラム街、カンゲミ地区で結核抑止プロジェクトを実施しています。現在、より良いサービスを患者さんに提供するため、結核検査所を建設しています。1階部分の外壁工事は終わり、2階部分に入りました。

まず、丈夫な建物になるよう、鉄筋を組んでいきます。



そこに、コンクリートを流し込んでいきます。
床が遂に完成しました。



運動音痴の現場監督のために、階段も急いで整備
してくださいました。

これで、2階までの昇り降りも、安全に行えるよう
になりました。



来週以降は、2階の外壁工事に入ります。早く患者さんに施設を使っ
てもらいたい！と、業者の方が土日返上で作業をしてくださっています。安
全第一で工事が進むことを願っています。



2018 年 04 月 09 日

ランプ法(LAMP 法)、結核の早期発見のために

日本リザルツは、結核患者ゼロを目指して、ケニアのナイロビ市にあるカ
ンゲミ地区というスラム街に、結核の早期発見のための検査所を建設し
ています。

この検査所では、従来ケニアで行われてきた喀痰の塗抹検査に比べ、よ
り迅速・正確に結果を出せる栄研化学株式会社が開発したランプ法を導
入します。ケニアにおいてまだ発見されていない数万人の潜在結核感染
者を一人でも多く発見、早期の治療を行うことを目指すためです。

本日、日本リザルツにケニアから来日しているムイハキさん(サーモブロック・ジャパン株式会社勤務)等が来
訪し、栄研化学の渡辺さんによるランプ法のデモンストレーションを見学しました。



ガザの惨劇

アメリカのトランプ大統領がエルサレムに大使館移転声明を発表してから米国への抗議の声が更に高まっ
ているようである。この2、3日で再びガザから悲しいニュースが飛び込んできた。4月6日イスラエルとの国境付

近で行われた米国に対する抗議デモでは、イスラエル軍の銃撃などで8人が死亡、1,356人が負傷した。更に昨日は抗議活動取材していたパレスチナ人記者ムルタジャ氏がイスラエル兵に銃で腹を撃たれ死亡した。氏は報道関係者であることを示す「PRESS」と胸に大きく書かれた青いベストを着て抗議活動の様子を撮影していたそうである。「国境なき記者団」のデロワール事務局長は自身のツイッターで「報道機関であるベストを着ていたにもかかわらず、発砲されたのは明らかに意図的だ。発砲したイスラエル軍に抗議するとともに、加害者の調査を求める」とコメントしている。ガザに平和が戻るのはいつになるのだろうか。

A WEEK FULL OF ACTIVITIES

Over last week, a number of activities were conducted, which made the week really busy.

To start with, there was the checking of bikes given to CHVs earlier on. The progress was good.

A number of discussions were also held with the CHV leaders, on the few changes that had to be made to make CHV management easier. This was led by Yuko (Shiro), with the help of Calvin. We are grateful to them.

I was also able to counter check the work of the CHVs, from their reports, and also according to the TB register to ascertain if indeed, they did the work as they said.

Later in the week, we inspected the ongoing work at the site, which is so far so good. The contractors are doing a very professional job there.

This week may even be busier as we embark on follow up meetings, and analysis of the survey.



We wish all our staff the best of health, and energy as we strive to do a very good job for RESULTS Japan.



世界各国のリザルツのパートナーと定期的に意志の疎通を図っています。

リザルツは政策提言や普及啓発活動(アドボカシー活動)を通じて民意の反映された国際援助を実現し、飢餓と貧困の根絶を最優先とする「政治的意思」の確立に向け活動しています。そのため、リザルツの世界12カ国・地域のパートナーとは月一度スカイプを使って責任者会合を行っています。4月は4日にそのスカイプ会議が行われました。そこでは例えば世界結核デー等各種イベントの報告、世界各国の事業の進捗状況、米国リザルツの各種活動、活動のための資金集め等について各機関代表が忌憚のない意見の交換をしています。またこの責任者会合とは別に毎週水曜日に TB(結核)・栄養・小児保健について個別の電話会議を行ない、情報共有・意見交換をしています。引き続き、世界のリザルツでの様々な活動についてブログで皆さまにご報告をしてまいります。

2018 年 04 月 10 日

栄養に関する専門家との意見交換会

本日、外部の栄養専門家と、アジア・アフリカにおける栄養問題について意見交換を行いました。今回は昼食の時間帯となりましたが、大変充実したものになりました。今後もこうした意見交換会を継続していくこととなりました。

2018 年 04 月 12 日

結核議連総会議事録英語版の作成

東京事務所では、結核議連総会の議事録の英語版の作成作業を進めています。



英語のチェックなどケニア事務所のケニア人スタッフの協力を得て、作業は素晴らしく速いスピードで進んでいます。



アブタさんに感謝！

日本リザルツの東京オフィスでは、現在、栄養シンポジウム、結核議連の議事録の英訳作業が進んでいます。さて、日本人スタッフが訳したものの精度を高めるため、ケニア事務所のスタッフで、政治家の卵、アブタさんが英文チェックをしてくれました。何十ページもある英文を修正するために、お家で夜を徹して作業してくれました。今日も朝6時からオフィスで働いています。



写真は今日のアブタさん。なんと、すでに結核議連の翻訳の修正を始めています。アブタさんをはじめ、現地スタッフの協力に支えられて、私たちの活動は成り立っています。アブタさん、いつもありがとうございます。

2018 年 04 月 16 日

オフィスのハマユリ

白須代表がオフィスのハマユリを眺めて、今ケニアにいる長坂さんが以前、初めてハマユリを活けた事を思い出し、うっとりとしています。



議員会館前のつつじ

ついこの間桜が散ったと思ったら、今つつじの花が街のあちこちで咲き始めました。日々仕事に追われ季節の移ろいを楽しむ余裕がありませんでしたが、今日、議員会館の前で見たつつじがとてもきれいだったので、シャッターを押しました。



新しい仲間が増えました

日本リザルツケニア事務所に新しい仲間が増えました。

1人目はヒルダさん。CHV 出身です。カルヴィンのパートナーとして、180人の医療ボランティアさんを管理しています。CHV 出身だけあって、日本リザルツの活動を既に熟知しています。早速「CHV の月間レポートをどうやって期限内にまでに集めるか」など CHV の活動のモニタリング強化に向けて、アイデアを出してくれました。カルヴィンとの信頼関係もすでにばっちりです。

もう1人のシコさんは栄養士です。今日から仲間入りしました。看護師のマギーさんとともに結核患者さんのお宅を訪問し、患者さんの栄養指導を行います。2人の子どもを育てるお母さんでもあります。

現スタッフの3人も、新たな挑戦を始めています。職員の管理、マネジメントはアブタさんが行っており、現地職員を統括すべく若きリーダーが奮闘しています。また、カンゲミでは、カルヴィンさんがフィールドのリーダーとして、CHV リーダーの活動管理、CHV のマネジメントを行っています。そして、看護師のマギーさんは投薬を拒否する結核患者さんのお宅を定期訪問し、投薬のフォローアップを行っています。

頼もしい仲間が増えた日本リザルツケニア事務所。「結核で亡くなる患者をゼロにする」という目標のもと、より効果的に活動が行えるよう、体制を整えていきたいと思っています。

FORGING AHEAD

Admittedly the last couple of weeks have been packed up with a number of activities, and in essence, the other weeks seem to be having much more to be done.

We appreciate the coming in of new staff, who will be instrumental in the running of activities of RESULTS in Kangemi. The management of CHVs



for a much productive work remains very essential. We strongly hope that this will be working well, and we shall achieve great results.

On my part as well, I will promote Results Japan on Kenyan Newspaper through an article on immunization, ahead of the World Immunization Week. I strongly hope it will be read widely and will have great responses coming out of it. Still, we work!

2018 年 04 月 17 日

谷合先生の投稿記事

昨日の日経新聞に谷合正明農水副大臣の投稿が掲載されましたので紹介させていただきます。谷合先生や事務所の皆さまにはリザルツが日ごろから大変お世話になっています。



栄養関連企業との意見交換会

本日、栄養関連企業と、アジア・アフリカにおける栄養問題について意見交換を行いました。先方からは、ベトナムで展開されている栄養士制度の創設についてご説明を頂きました。今後の栄養問題の展開に関しては、栄養士の育成などソフト面の支援も重要であることが分かりました。今後もこうした意見交換会を継続していきたいと思います。

ハマユリ

今日も、オフィスのハマユリのお話です。ケニアの地図パズル＝通称ケニア君と怪獣のぬいぐるみも、ハマユリ観賞に加わってくれました。こちらのテーブルでいつも昼食を食べているのですが、華麗なハマユリを前に「食」も進みます。栄養にも配慮したお弁当を仲間とワイワイ言いながら食する楽しいひとときです。この小さい幸せを自分だけでなく、アフリカ、中東始め、世界の子ども達やお母さん方と分かち合いたいです。今日も頑張ります。



2018 年 04 月 18 日

日本人もパレスチナ難民を知って支援を

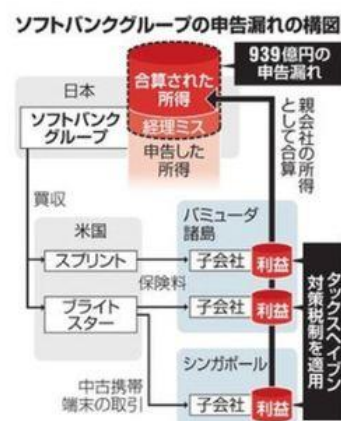
すでに何度か本ブログでもご紹介を致しておりますが、現在国連パレスチナ難民救済事業機関(UNRWA)は世界的な資金調達キャンペーン「#尊厳を守る」(#DignityIsPriceless)を実施しています。米国トランプ大統領が UNRWA に対する支援を大幅に凍結した今、状況は非常に厳しくなっています。日本リザルツではミュージックセキュリティーズが立ち上げたクラウドファンディングに協力をしています。4月16日の朝日新聞 Globe にこの活動が紹介されました。

ソフトバンク、タックスヘイブン子会社の所得に追徴課税 大企業の租税回避への対応は？

東京国税庁はソフトバンクの(タックスヘイブン地の)バミューダ子会社は実質的な事業活動をしていないペーパー会社と判断し、「タックスヘイブン対策税制」(*)の対象として、追徴課税を行った、と朝日新聞が報じています。

ソフトバンクの申告漏れ総額は約939億円ということですが、これに対し実際の追徴課税は約37億円に止まったのは、果たして妥当な金額なのかどうなのか議論のあるところですが、タックスヘイブン対策税制が作動したことはたいへん結構なことだと思います。

多国籍企業のタックスヘイブン等を利用した租税回避の動きに対して、OECDやG20はBEPS(税源浸食と利益移転)行動を実施しつつあります。とくに行動13の「多国籍企業の活動実態の国別報告義務(移転価格税制に係る文書化)」は、今年の3月期決算から適応されることになっています。また、「共通報告基準(CRS)に基づく金融口座情報の自動的交換」制度も、世界で2017~2018年中に行われることになっています。これらのこともあり、日本企業でも下記のように税の情報公開・透明化が進みつつあるようです。



【日経新聞】租税回避の批判に備え、三菱ケミヤ資生堂など方針明文化 (18.2.28)

法人税など納税の基本方針を公表する企業が増えている。2017年度は三菱ケミカルホールディングスや資生堂が初めて開示するなど約20社に広がった。国際ルールの見直しで、グローバル企業ほど租税回避の批判にさらされやすい。税務の透明性を高めて株主や消費者の支持につなげる狙いがある。

問題は、巨大IT企業への「デジタル課税」(当面、売上高税)を日本が欧州ともに、米国の反対を押しのけて実施できるか、どうか、です。アマゾン・ドットコムは日本での昨年の売上げは1.6兆円もありましたが、まったく法人税を払っていないのです。

【朝日新聞】ソフトバンク939億円申告漏れ 租税回避地の子会社分(18.4.18)

ソフトバンクグループ(SBG、東京都港区)が東京国税局の税務調査を受け、2016年3月期までの4年間で約939億円の申告漏れを指摘されたことがわかった。買収した海外企業がタックスヘイブン(租税回避地)に持っていた子会社の所得について、SBGの所得と合算すべきだと判断されたという。追徴税額は過少申告加算税を含め約37億円で、すでに修正申告したという。

同国税局は、「バミューダ子会社は実質的な事業活動をしていないペーパー会社」と判断。税負担の軽い国や地域に所得を移し日本で支払う税金を減らすのを防ぐ「タックスヘイブン対策税制」の対象と認定した。そのうえで、子会社の所得を最終的な親会社であるSBGの所得に合算するべきだと指摘した。

…中略…

合算対象となった所得は計約747億円。数百億円規模の申告漏れは異例だ。株式売却益をめぐる経理ミスなどもあり、申告漏れ総額は約939億円にのぼったが、意図的な税逃れではないと判断され、重加算税は課されなかった。追徴税額は過去のSBGの赤字と相殺され、約37億円にとどまったという。…以下、省略。

(*)タックスヘイブン対策税制とは

企業や富裕層が、法人税率などが低い租税回避地(タックスヘイブン)にペーパー子会社を設立して配当や知的財産などからの所得を貯め込むことを防ぐために、子会社の所得を日本の親会社の所得に合算して課税する制度。

エリトリア

昨日4月17日の朝日新聞にエリトリア(アフリカ大陸東端に位置しエチオピアとスーダンと国境を接している)の記事が出ていました。日本リザルツはエリトリアの情勢に関心をもって勉強をしています。



谷合先生の投稿を読んで

昨日の谷合先生の日経への投稿について書かせて頂きます。歌が国境を越える、自分の気持ちも国境を越えるという文書を読んで、「自分たちの気持ちをアフリカの子ども達やお母さんに、遠い日本から伝えたい」という気持ちになりました。歌の持つメッセージ性も学びました。その一方で、背景には先生の学生時代のご友人との交流がベースであることが分かりました。先生の大学卒業後の国際協力のご経験が、友人のアフリカの子ども達に向けた音楽活動につながったということ。若き日の交流が現在に活かすこと、人と人との心のつながりの大切さ、素晴らしさを、先生(現農水副大臣)が読者に広く知らせて下さったことに感銘を受けました。

自分もこれほどドラマチックではないですが、学生時代の友人との交流が今に活かされればいいなと思いました。

2018 年 04 月 19 日

浜松の大風職人のケニア奮闘記が静岡新聞に！

日本リザルツは3月24日の世界結核の日に合わせて、ケニアで凧揚げを行いました。
結核検査所の建設責任者、改め、大風職人の藤波慎吾さんの凧揚げ奮闘記が、ご自身の地元である静岡新聞に掲載されました。以下記事になります（一部修正）。

結核根絶、大だこに乗せ ケニアの空「浜松の心」舞う

(2018/4/17 17:37)

浜松まつりを前に、浜松市中区出身の男性が作った大だこが、ケニアの首都ナイロビの空に舞い上がった。
ナイロビで結核検査施設の建設に携わる藤波慎吾さん(41)が、現地で結核の予防を呼び掛ける大だこを揚げた。集まった子どもたちは初めて目にする大だこに大喜び。このほど一時帰国した藤波さんは「浜松の祭りのように人々が結束し、助け合いの心が世界に広がってくれれば」と語った。

同市内などで建設業を営む藤波さんは2017年10月、世界の貧困問題などに取り組む非政府組織(NGO)「日本リザルツ」(東京都)のスタッフと都内で知り合い、結核検査施設の建設の協力を要請された。11月からナイロビのスラム街・カンゲミ地区で建築を進めている。

同NGOはこれまでもパレスチナのガザ地区や埼玉県春日部市で結核予防啓発を目的にたこ揚げを行ってきた。今年も「世界結核デー」(3月24日)に合わせてナイロビでたこ揚げが予定されていたが、藤波さんが「どうせなら大きなたこを揚げよう」と提案し、2月中旬から準備に取りかかった。

現地で見つけた竹林の所有者から5本の竹を譲り受け、なたで切ったりかんなで削ったりして竹ひごを作った。竹ひごを組み合わせたフレームに和紙を貼り、日本とケニア両国の国旗を描き、英語で「結核をなくそう」と記した。約1カ月かけて完成した大だこは、3メートル四方。作業には興味を持った住民も加わった。

3月下旬、現地の小学校に集まった児童約2,100人が、結核についての説明を受けた後、半紙大のたこを各自が作り、グラウンドを走り回った。続いて大だこが登場し、空を舞うと、児童らは歓声を上げたという。藤波さんは「みんながたこ揚げに満足してくれて良かった。結核を根絶させる運動が盛んになれば」と話した。

ナイロビ カンゲミスラム居住区結核検査所建設工事

日本リザルツはケニアのスラム街・カンゲミ地区で結核抑止プロジェクトを実施しています。現在、より良い医療サービスを実施するために結核検査所を建設しています。

今週は、2階部分の壁・柱工事を行っています。



2階の壁を作ります。



部屋の仕切りも、サイズ確認をしながら作ります。



今日で2階部分の壁・柱が出来上がりました。今後は、梁・屋根の工事が始まります。



事故や怪我が起きない様に、気を付けて工事を進めます。

なでしこに「平和の尊さを深く感じ感謝」

国連パレスチナ難民救済事業（UNRWA）の清田明宏保健局長が、17日にヨルダン・アンマンで行われた、なでしこジャパン対中国の試合をスタンドで観戦して、サッカーがもたらす「至高の平和の一瞬」の尊さを深く感じたことに感謝したというスポーツ報知の記事について、清田保健局長ご本人から情報提供をいただきました。その記事ではまた、トランプ政権の資金拠出凍結により UNRWA が迎えている未曾有の資金難についても述べています。

GII/IDIに関する外務省/NGO 懇談会

本日外務省/NGO 懇談会が外務省で開催されました。この懇談会は2カ月に1度開催されるもので、地球規模の保健医療分野の課題（ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ:UHC や母子保健、栄養改善、我が国の国際保健政策等）について幅広く情報・意見交換を行うことで、連携強化を促進することを目的としています。本日はG7/G20の保健関連、メコン地域のマラリア制圧、世界結核議連会合などについて情報共有・意見交換を行いました。日本リザルツからは、世界結核デーを記念して開催した「結核世界風揚げ交流会（ケニア及び春日部）」について報告しました。



神奈川新聞への投稿

13日付で神奈川新聞にスタッフによる投稿が掲載されましたのでご紹介します。

<投稿原稿>

「若者の働きぶりに刺激を受け、今後のパワーに」

御年66歳の私は、国家公務員を経て、現在は国際 NGO で働いている。高齢者の雇用情勢は厳しい。元国家公務員の私でさえ、定年後、職を探すのに苦労した。履歴書の年齢を見ただけで、選考から落とされてしまったのだ。私の NGO は、年齢制限がない。1年ほどかかり、漸く、今の NGO に雇ってもらうことになった。

働いてみて驚いた。NGO の仕事に貢献しているのが、20～30代の若手職員やインターンの大学生だったことだ。私と席を並べて働くのは、なんと大学4年の男子学生の21歳だ。NGO は職員が少ない。上司の指示に従い、速やかに仕事をする必要がある。コンピューターが苦手な私が3時間かけて、漸く1つの仕事を終えるころには、彼は3つも4つも仕事をこなしている。彼の処理能力には頭が上がらない。また、知識も豊富だ。ケニアの最貧困村で感染症の抑止のための活動を実施したり、スラム街で結核患者の予防のための支援を行ったりしていた実績を持つ。年は私の3分の1だが、彼から多くのことを学び、刺激を受けている。

人生は100歳時代。私もまだまだ成長できる。目の前にいる21歳に少しでも追いつき、追い越せるように、NGO の仕事を通じて精神も体も鍛えなおしたい。



UNRWA アドボカシーペーパー

日本リザルツは国連パレスチナ難民救済事業機関(UNRWA)のキャンペーン事務局をしています。いつも応援いただいている国会議員の先生方に、本日アドボカシーペーパーを配布しました。



2018 年 04 月 21 日

「浜松の大風職人のケニア奮闘記が 静岡新聞に！」に思う

4月17日の静岡新聞で、「ケニアの空「浜松の心」舞う」とのタイトルで、ケニア事務所で結核検査所の建設にも携わっておられる藤波慎吾さんの記事が掲載されました。結核の根絶を目指してケニアで頑張っておられる藤波さんが浜松とケニアの橋渡しにも貢献されていることが、静岡県民に広く伝わりました。

伝統ある浜松まつりでは、御殿屋台の引き回しと並んで大風合戦が有名です。藤波さんは、浜松での凧作りの経験を活かして、今回ケニアで初めて凧の制作を行いました。骨組み、竹ひごの材料はケニアの竹、制作にはケニアの人々も協力し、立派な手作りの凧が完成しました。

日本リザルツは埼玉県春日部市でも凧揚げ大会を行っています。春日部市民の気持ちが凧を通じてケニア、中東に伝えられています。地味かもしれませんが、凧揚げを通じた心と心の交流は、本当に尊いことだと思います。

筆者は、長野県伊那地方の出身です。伊那は、南アルプス、中央アルプスを背にし、諏訪湖を源流に遠く浜松まで下る天竜川の上流にある自然豊かな地域です。浜松、春日部の様な凧揚げの伝統はありませんが、米、果物、野菜、畜産物、川魚、山菜に加えて、イナゴ、蜂の子、ザザムシなど昆虫食の伝統がある食材の宝庫です。最近では直売所で地元の生産者が新鮮な食材の提供が盛んです。また、長野県は、日本の中で1、2位を争うトップクラスの長寿県でもあります。

このところグローバルレベルの栄養改善問題に取り組むことが多くなっています。FAOなどの栄養の専門家による分析も数多く目にします。こうした中で、改めて、日本国内の農産物、食生活を見直すことが重要かと思います。その上で、和食などバランスの取れた食事、わが国の栄養評価や表示技術などのイノベーションも活用しながら、ケニアや中東の人々の食文化に合った方法を検討し、現地の栄養改善、食料確保、健康維持に役立つ取組みを通じて、栄養分野で日本とアフリカとの橋渡しに役立ちたい、という気持ちになりました。藤波さん有難うございます。益々活躍下さい。

2018 年 04 月 22 日

ミランガ先生

先日、徳洲会顧問のムワナタンブエ・ミランガ先生が日本リザルツ白須代表との意見交換のため、来訪されました。ミランガ先生はコンゴ民主共和国出身で1987年に日本政府奨学生として初めて来日して以来、医療の分野において、日本とアフリカの協力関係に力を注ぎ、徳洲会では顧問として、アフリカにおける透析装置の寄贈及び透析センターや看護学校の開設サポートなどの医療支援を中心に活動していらっしゃいます。



カンゲミ大掃除大作戦

日本リザルツはケニアのスラム街、カンゲミ地区で結核抑止プロジェクトを実施しています。カンゲミ地区にはごみ収集の習慣がありません。日本リザルツが活動しているヘルスセンターにも、ゴミがあちこちに散乱しています。カンゲミを日本のようにぴかぴかにしたい！ということで、新たなスタッフのヒルダさんを中心に、カンゲミ大掃除大作戦が始まりました。



現在は雨季の影響もあり、ヘルスセンター内は泥だらけでしたが、お陰様でぴかぴかになりました。カンゲミ地区をどこの地区にも負けない「きれいな街」にできるよう、日本リザルツ職員は一丸となってこの取り組みを続けていきます。

2018 年 04 月 23 日

キャッシュレス化が進むケニア

今朝7:00のNHKニュースでキャッシュレス化が進んでいるケニア社会の様子が紹介されていました。ケニアでは一部のお金持ちしか銀行口座を持たない為、大部分の人達がM-PESAというモバイル送金サービスを利用しているそうです。特にナイロビ等の都会に出稼ぎに来ている人達の間で家族に送金する手段としてこのサービスが利用されているとの事。始まりは携帯電話の料金を支払うための電子マネーだったとの事です。ナイロビ等都会では治安情勢が必ずしも良くないので、タクシー料金の支払などにも電子マネーが使われている様です。

ポスト出国税における国際連帯税活動＞G20 大阪サミットに向けて

国際観光旅客税(以下、出国税と略)は4月11日参議院本会議で成立し、来年1月7日から、日本人を含めて海外に出国する人から1人あたり1,000円が徴収されることになりました。この出国税に対して、私たちは「日本国内の観光インフラ等整備だけ」に使うのではなく、グローバルな課題にも使用すべき、と主張してきま

した。つまり、国際交通網の発達による負の影響である感染症の拡大や温室効果ガス増大への対応です。そしてこうした対応は来年大阪で開催される G20サミットにも資することになります。



●川田龍平参議院議員への質問に対する政府回答

参議院で川田龍平議員は、「海外から観光客等が増加した場合、国外から感染症が持ち込まれるリスクが高まり、中東呼吸器症候群(MERS)のような新興感染症が国内で広がったとすると、旅行者数が減少する影響だけで経済損失が2.7兆円生じ、観光業などでの雇用が58万人失われる」として、「出国税による税収使途に内外の感染症対策を加えるべき」との質問主意書を政府に提出しました(以上、主意書要旨)。

これに対し、政府の回答は「出国税の使途の基本方針は閣議決定がなされ、それは①18年度は顔認証ゲートなどの CIQ(税関、出入国管理、検疫)体制の整備にあて、②19年度以降は観光戦略実行推進タスクフォースで検討する」ことになっており、感染症対策に使うべきという質問に「お答えすることは困難」というものでした。

●「いらっしやい、いらっしやい」だけでは問題が多い

川田議員の挙げた「経済損失2.7兆円、観光業などの雇用58万人喪失」という数字は、2015年に韓国での MERS 発生問題を踏まえた日本政府による試算です。つい最近も沖縄ではしかが流行する事態になっています。

【日経新聞】沖縄ではしか流行 GW旅行控え、感染拡大に警戒(4月20日)

強い感染力を持ち、高熱や発疹などの症状が出るはしかが沖縄県で流行している。外国人旅行者から感染が広がり、19日までの約1カ月間で感染者は65人に上る。

…中略… 国立感染症研究所によると、近年は患者数が数十～数百人程度で推移。大流行は起きていないが、訪日客の増加に伴い、ウイルスが海外から持ち込まれるリスクが高まっている。

また、感染症等グローバルな問題ではありませんが、京都や鎌倉などで「観光公害」が生じている、という問題があります(世界の有名観光地はどこもこのことに悩まされているようです)。さらに観光特需が必ずしも地元経済を潤していない、という現実もあるようです。

【朝日新聞】(ニッポンの宿題)目立つ「観光公害」(4月21日)

…前略… 清水寺や金閣寺へ、わびさびの静寂さや雅(みやび)な雰囲気期待して訪れても、朝一番で行かないと、混雑ばかりで全く味わいがありません。至る所で京都らしい雰囲気が消えていったら、日本の文化を本当に愛する外国人が離れていく危険もあります。

【現代ビジネス】もう日本人の出る幕なし？外国人だらけのニセコに見る日本の未来 このままでは「観光大国」は遠い夢…

どうも今回の出国税実施に向けたプロセスを見てみると、訪日外国人客目標4,000万人だ(2020年)、6,000万人だ(2030年)、とにかく増やそう「いらっしゃい、いらっしゃい」ということであり、上記のような負の影響についての議論は見当たりません。従って、19年度以降の税收使途を決定していく「観光戦略実行推進タスクフォース」において、ぜひ負の影響に対してどうするか、とくに内外の感染症対策のために税收の一部を使用するよう議論を進めていただきたいと思います。

●確かにポスト出国税では国際連帯税の実現は厳しいが…

以上のように、航空券連帯税と同じ徴税システムとなる出国税が入ってしまいますと、新しく航空券連帯税を入れることは確かに困難ではあります。しかし、次の点から必ずしも連帯税を実現させることは無理ではありません。

1、新税を導入する金銭的余地は十分あること

これは各国のいわゆる空港税・料金を比較すると理解できます。一言でいいますと、日本が1,000円の出国税を入れても、他の主要な国と比べても空港税・料金が安いからです。従って、新税を入れる余地は十分あります。

・日本(成田空港):旅客サービス施設使用料2,090円、旅客保安サービス料520円、出国税1,000円
合計3,610円

・韓国:出国税(出国納付金)10,000ウォン、国際疾病撲滅基金(国際連帯税)1,000ウォン、旅客サービス料28,000ウォン 合計 4,030円(39,000ウォン)

・フランス:国際連帯税560円、民間空港税990円、空港税1,560円、旅客サービス料3,410円 合計 6,520円 (パリ CDG 空港→成田空港 エコノミー席の場合)

・英国:旅客サービス料6,140円、航空旅客税11,500円 合計 17,640円(英 LHR 空港→成田空港 エコノミー席の場合)

2、航空業界・国交省反対できず、世論からの支持は十分にある

外務省が9年連続して国際連帯税を要望してきましたが、それに立ちはだかつてきたのが航空業界と国交省でした。その反対理由の主な主張は「連帯税等の税金制度を導入すると外国人旅行者に新たな金銭的負担を課すことになり旅行者が減少する」というものです。ところが、航空業界は出国税導入を認めたこと、すなわち外国人旅行者に新たな金銭的負担を課すことを認めてしまったわけですから、今後は航空券連帯税に反対することはできなくなりました。

一方、国民感情はどうでしょうか。実は今年の2月に外務省が国際連帯税の制度設計に関してシンクタンクに調査研究を委託しましたが、その報告を見ますと国際連帯税のなかでもとくに航空券連帯税についてはネットアンケートで4分の3もの賛成が得られました。出国税実施後さらに厳密な世論調査を行えば、多分こんなに高い数字にはならないでしょうが、感染症や気候変動など地球規模課題解決(SDGs 達成)のための資金であることをきちんと説明していけば60%前後の支持を得ることは可能と思われます。

外務省調査研究「国際連帯税を導入する場合のあり得る制度設計及び効果・影響の試算等」((一財)日本総合研究所)

3、来年は日本で G20サミット開催、SDGs 達成のための資金として

来年 6 月末日本が議長国となり大阪で G20サミットが開催されます。主要議題を決めるのはこれからですが、日本政府のこれまでの取組みからして国際保健(含む感染症)が入ってくることは間違いないと思います。また言うまでもなく、国際保健(含む感染症)は持続可能な開発目標(SDGs)ならびに日本の SDGs 実施ガイドラインの主要アジェンダです。

これまで述べてきましたように、国境を超える交通網の飛躍的な発達はその国では起こりえないような(流行性)感染症の病原菌・ウイルスを持ち込みます。つまり、国際航空等が感染症拡大という負の影響力の一要因ともなっており、その意味からも国際航空等を利用する乗客は(負の影響力から生ずる)コストの一部を負担する義務があるのではないのでしょうか。また、この間新旧型の感染症が世界各地で発生し、対策が間に合っていないこと、それは同時に資金が間に合っていないことが問題となっています。

今こそ日本政府は、G20大阪サミットにおいて「国際的に脅威となる感染症対策を強化するための資金創出メカニズムとして航空・乗船券連帯税を実施する」と宣言し(これは同時に SDGs 達成のための資金となる)、サミットでの我が国のイニシアティブを発揮すべきと考えます。

【参考】国際的に脅威となる感染症対策の強化に関する基本方針 平成28年2月9日

国際的に脅威となる感染症対策関係閣僚会議

THE CLEANING ACTIVITIES

It is very important to note that over last week, despite the muddy state, to clean up organized by Yuko and Lilian was effective and managed to have most parts of the facility clean.

Lots of cleaning happened in the maternity wing and the clinics' area.

It was impressive to note the way cleanliness can be achieved when everyone takes the initiative to clean. In less than two hours, the sanitary condition was much better, and the place was too clean than it is in normal days.



We intend to extend the activity to other places, in earnest wish to encourage everyone to carry out cleaning activities in their neighborhoods and make Kangemi a cleaner place.



「JIMOT CM REPUBLIC FINAL」で味の素ファンデーション支援作品「ネパールの子どもたちと学校」がグランプリ受賞

4月21日(土)、那覇市で、「JIMOT CM REPUBLIC FINAL」が行われました。この催しは、CMを通して地元の魅力を伝える作品のコンペティションですが、今年は国連の「SDGs」をテーマに取り入れた作品となり、国連本部広報局のジェフリー・ブレイズさんも審査員として参加しています。

海外部門では、ネパールの子供たちが学校で学ぶ姿を描いた「ネパールの子どもたちと学校」がグランプリに輝きました。制作者であるライさんの支援にあたられた公益財団法人味の素ファンデーションの栗脇啓さんがライさんとともに授賞式に出席されました。

2018 年 04 月 24 日

インドに安全なトイレを。

4月11日のNHK クローズアップ現代で「“トイレ大革命”！日本の技術に世界が仰天」が放映されました。インドでは現在3億人の人々が野外で排泄をしており、そのうち12万人は感染症等で死亡しているとのこと。

2018 年 04 月 26 日

【メディア掲載】国際開発ジャーナル解「国」新書

国際開発ジャーナル2018年5月号にて日本リザルツの長坂が寄稿したものが掲載されました。



【メディア掲載】公明新聞 ケニアで見つけた「初めて」

本日(2018年4月26日)付の公明新聞にて日本リザルツの長坂が寄稿したものが掲載されました。



タックスヘイブン勉強会

4月25日(水)、国際連帯税創設を求める議員連盟の衛藤征士郎会長、石橋通宏事務局長等の呼びかけにより、参議院議員会館において「タックスヘイブン問題と調査報道を考える勉強会」が開催され、国会議員を始め学識経験者、NGO等40人程が参加しました。共同通信社の澤康臣氏による講演の後、国会議員、NGOや学生からも質疑があり、忌憚のない意見交換がなされました。タックスヘイブンの問題は租税回避にとどま

らず様々な犯罪と結びついていること、タックスヘイブン以外のすべての国や地域もまた程度の差はあれ同様の問題を内包していることなどについて考えさせられる内容でした。



会場の様子



澤康臣講師

ZERO マラリア2030キャンペーンイベント

ZERO マラリア2030キャンペーンイベント、「狂言「蚊相撲」と日本のマラリア」が、4月25日、上智大学の国際会議場で開催されました。日本のマラリアの歴史は源氏物語にさかのぼります。当時は高熱から「わらやみ」と呼ばれたそうです。平家物語の平清盛もマラリアであったという説もあるようです。日本では1959年に滋賀県で最後のマラリアが確認されています。こうした中、世界では、現在も91カ国で2億人がマラリアに感染しており、年間44万人が死亡しています。このため、WHO は、2030年までに全世界のマラリア発症件数と致死率を、2015年の水準の90%以下に抑えることを掲げています。地球温暖化が懸念される中、日本でもマラリアが再興することも懸念されます。日本でも引き続き注意していく必要があります。また、開発途上国では、依然として深刻な感染症であるマラリア、その根絶と予防を世界レベルで対応していくことが望まれます。



靴の箱の山

本日は靴の箱の山の写真をご紹介します。とうとう靴の箱が会議室に収まりきらずにらぼーるの部屋にも！



ボランティアの藤崎さんは
今日も靴の箱詰めをしています。



会議室の左側



会議室の右側

らぼーるの部屋にも大量に靴の箱の山！



#尊厳を守る

日本リザルツは国連パレスチナ難民救済事業機関（UNRWA）のキャンペーン事務局をしています。米国は国連パレスチナ難民救済事業機関（UNRWA）に対する拠出を凍結しました。それを受け、UNRWA は世界的な資金調達キャンペーン「#尊厳を守る」(#DignityIsPriceless)を開始しました。

日本では、国連機関として初めて1億円の寄付金を募るクラウドファンディングです。

UNRWA の清田保健局長は「UNRWA はいま、本当に未曾有の危機です。

日本からは遠いパレスチナの地のパレスチナ難民ですが、彼らが今もつとも必要としている支援が届けられるよう、是非ご協力をお願いします。そしてそれを支えてくれるクラウドファンドのキャンペーンは本当に素晴らしい」と話しています。

パレスチナ難民問題の発生から今年で70年になります。その生活、教育、医療を支えてきたのはUNRWAです。そのUNRWAが、米国の資金援助のカットのために未曾有の危機にさらされています。難民の子供達が学校に行けるように、病気の患者さんが診療を受けられるように、皆様のご協力をお願いします。また、日本リザルツでは、いつもお世話になっている皆様にご協力いただけるよう、広報活動をしています。



グローバルファンド新事務局長来日

本年3月、世界エイズ・結核・マラリア対策基金（グローバルファンド）の事務局長に就任した、ピーター・サンズ氏の来日を記念して、4月24日に英国大使館でレセプションが開催されました。当日は国会議員、NGO を含む関係団体の皆様が多く集まり、会は盛況でした。サンズ事務局長は、エイズ、結核、マラリアはまだまだ深刻な状況であり、グローバルファンドは各国政府、NGO 等とパートナーシップを組んで制圧を目指して努力を続けると挨拶をなさいました。



2018 年 04 月 27 日

ナイロビ カンゲミ結核検査所建設

日本リザルツはケニアのスラム街・カンゲミ地区で結核抑止プロジェクトを実施しています。現在、より良い医療サービスを実施するために結核検査所を建設しています。

今週は、2階部分の梁・屋根工事をを行っています。



ケニアでは雨季です。現場は雨で非常に滑りやすいので、作業員には十分に気を付けてもらい、作業を行います。ヘルメット着用などの徹底を呼びかけました。

長崎あじさいライオンズクラブからのご寄付

ライオンズクラブ国際協会 長崎あじさいクラブ様からケニア・スナノミ症へのご寄付100,000円を頂戴致しました。これは長崎選出の秋野公造参議院議員のお力添えによるものです。秋野先生はワクチン予防議員連盟の事務局長で厚生労働省出身の医師です。2016年12月には、実際にケニアを訪れ、スナノミ症の患者の治療を視察されました。誠にありがとうございました。



河野外相、資金調達へ「国際的な税」も提案 ―シリア支援国会合で―

たいへん重要なニュースが飛び込んできました。25日の欧州と国連との主催によるシリア支援国会合(*)で河野太郎外相は、「支援のための資金をどうひねり出すかという新しいメカニズムが必要になる」という問題提起を行い、さらに演説後記者団に「国際的な税を考えていく必要がある」と語ったということです。

この「国際的な税」が何税であるのかは語っていませんが、国際連帯税のような税構想を考えているのかどうか、非常に気になる場所ですね。



シリア支援国会合の「ファミリーフォト」(河野外相のツイッターより)

【日経新聞】シリア支援国会合、日本は約15億円の協力を表明

【ブリュッセル＝森本学】欧州連合(EU)と国連が25日にブリュッセルのEU本部で開いたシリア支援国会合で、河野太郎外相はシリア人道支援へ新たに約1,400万ドル(約15億6,800万円)の緊急無償資金協力を表明した。河野氏は、今後の支援の資金調達の手法として、国際的な税の創設も検討していくべきだと訴えた。

支援会合での演説で支援を表明した。シリアのほか、同国から難民が流入するヨルダン、レバノンも支援の対象とする。

シリア内戦が長期化するなか、各国の予算から拠出する支援に頼る現状は「いずれ行き詰まる」と強調。「支援のための資金をどうひねり出すかという新しいメカニズムが必要になる」という問題提起もした。演説終了後、記者団に「国際的な税を考えていく必要がある」と語った。

河野氏は演説で、シリアのアサド政権による化学兵器使用疑惑を巡って、「使用者を処罰するための国際的な恒常的メカニズムが必要だ」とも参加国に呼び掛けた。

(*)2017年4月支援国会合に際しての外務省の説明(今年2018年は3回目の会合となるのですね):

シリア危機が7年目に入り、約1,300万人を超える難民・国内避難民の発生を含む深刻な人道危機が継続している状況を踏まえ、国際社会に対して新たな支援拠出を呼びかけるべく本会合が開催された。昨年2月にロンドンで開催された「シリア危機に関する支援会合」のフォローアップ会合としての位置付けもあった。

2018年04月29日

仕組みを変えるということ

日本リザルツの仕事は草の根から政府、あらゆるステークホルダーに働きかけを行い、国の制度、仕組みを変えることです。時に既存の政策、方針を変えるのには軋轢が生じます。日本リザルツに来て1年8か月。代表の白須を通じて学んだことが、アイデア次第で何でも変えられるということです。一番の思い出が運動靴の輸送です。今日はこの例を事例にアドボカシーとは何か？を振り返りたいと思います。

昨年5月、日本リザルツは日本の皆さまから集めた運動靴1.1トンをケニアに輸送しました。



本日現在も運動靴の山です。

しかし、ケニア政府は、中古の運動靴にも多額の関税をかけてきました。皆さまからの善意。ケニア政府にもご理解をいただきたい！という白須と長坂の信念のもと、「関税&倉庫料をゼロにする」ミッションが始まりました。長坂のパートナーに選ばれたのは、当時日本リザルツのドライバーだったアブタさんでした。毎日、朝6時から夜8時まで空港に居座り、ひたすら「税金をゼロにしてほしい」と訴え続けました。ケニアでは前例のない試み。時には、誹謗中傷も浴びせられました。それでも、白須と私の信念、「皆さまの善意の塊である運動靴を届けたい」という想いを実現したく、アブタさんとともに奮闘し、3週間の交渉を得て、特例で免税の措置&倉庫料の免除をいただきました。



左がアブタさんです。

また、自国ではないエチオピア航空様には運送で大変お世話になりました。なんと無料で輸送をしてくださいました。



感謝状授与式の様子。
右がイエルガ支社長。

なんと、このミッションがきっかけで、アブタさんは日本リザルツの職員となり、今は、プロジェクトマネージャーとして事業の統括を行っています。今、日本リザルツケニア事務所は結核抑止プロジェクトの改善を図るため、ケニア保健行政の大革命を実施中です。壁も多々ありますが、スタッフには、アブタさんと私でいつも運動靴のお話をし、不可能が可能にできることを共有しています。



数々の苦難に負けずに、職員一丸となって、結核で亡くなる患者さんをゼロにしたいと思います。

2018 年 04 月 30 日

HAJIMETE NO ROMAJI BLOG

Senshū, watashitachi ha Kangemi health centre de jibun de osouji wo okonaimashita. Sore wa Kangemi no hitobito ni volunteer no seishin wo shimesu kotoga mokuteki deshita.

Sono shū no kōhan, watashitachi ha chikucho wo otozure, kangemi wo sōji suru kyoka wo emashita. Kore wa Kangemi no hitobito wo makikonde osouji wo okonau yoi senryaku desu.

Wareware wa konshu mo yori koukateki na jigyo wo jissi dekiru you shokuin zenin de ganbarimasu.